

わたしは、しかたなしに、ねどこにねたまま、ふたりのじょちゅうのなまえをよんでみました。「ああ、それはよかった。はじめから、そうすればよかったのに」と、おうさまがいわれました。「でも、まえのはゆめですもの。しかたがありませんわ」「うん、そうだったな。それからどうした」「そうしたら、ふたりのじょちゅうが、ふたりともハイといって、おきてきましたから、あたしは、やっとあんしんをして、いまおはなしした、ふたつのゆめのおはなしをしてきかせました」「ふたりとも、びっくりしたでしょうねえ」と、こんどは、おきさきがいわれました。「ええ、ほんとにびっくりして、ふたりとも、かおをみあわせましてね。にこにこわらって、それは、たいへんにおめでたいゆめでございますっていうんですの」「ほー、どうしてめでたいのだ」「たからものをぬすまれたり、じょちゅうがしんだりするゆめが、なんでそんなにめでたいのかね」と、おうさまとおきさきさまは、またもそろっておたずねになりました。「それはこうなのです。ふたりのじょちゅうのいうことには、このくにで、いちばんめでたいゆめは、『たんとうとくも』のゆめと、むかしからいつたえてあるっていうんです」「ふーむ、そうかなあ」「あたしは、はじめてききました」と、おうさまとおきさきさまは、かおをみあわせました。「あたしも、よくしりませんが、じょちゅうがそういうんですの」と、おしゃべりひめは、